

# 諏訪の景気動向

平成20年2月

(平成20年1月末 D・I調査)

平成20年2月18日

岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

## 諏訪地方の景気動向（平成 20 年 1 月末）

「平成 20 年 1 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまたまた諏訪地方の景況」

諏訪地方 207 社のご協力を得て行った 1 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、業況が悪化した企業が増加し、回答全社の業況判断 D I は $\Delta 28.0$ と 2 期連続してマイナスとなった。

地域の景況は、製造業の受注状況や商業、観光・サービス業などの個人消費動向からみて、幾分冷え込み後退した。

**製造業**の「3 ヶ月前」と比べた業況判断は「好転」7.9%、「悪化」30.9%で、業況判断 D I は $\Delta 23.0$ と前回調査時の $\Delta 5.4$ に続きマイナスとなった。

受注状況は、「3 ヶ月前」と比べ「不変」とする企業が 42.4%と一番多いものの、「減少」とする企業が 41.7%みられ、受注状況 D I は $\Delta 25.8$ となっている。業種別では金属製品の 61.1%、精密機械の 53.8%で受注が減少しており、規模別では「30 人～99 人」企業の 51.0%で受注が減少している。

「3 ヶ月後」の受注予想は、製造業全体では増加とみる企業 16.0%、減少とみる企業 27.3%で受注予想 D I は $\Delta 11.3$ となっている。

ヒアリング調査では、昨年の秋口以降からのサブプライムローン問題や不安定な株価、円高の進行などの輸出環境の変化に加え、アメリカのクリスマス商戦の影響などから一部で生産調整を予測する企業が見られる。また、地域の上場企業の業績は昨年 10 月期がピークで、3 月決算に向け慎重な見方が窺えた。下請企業からは、受注が昨年の秋口以降から徐々に減少しており、回復は 4 月以降になるとの見方が聞かれ、地域製造業全体では踊り場を迎えている。

**商業**は、年末から 1 月上旬までは暖冬傾向が続いたが、1 月下旬に寒波が入り込むなど不順な天候に左右され、婦人衣料品をはじめ季節商品の売れ行きは低調であった。食料品は、購入点数が伸びず客単価が下がっており、なかでも中国製食品の安全問題から冷凍食品の売上が大幅に落ち込んでいる。家電では、薄型 TV は販売台数を伸ばし、省エネ型ルームエアコンなど新たなニーズがみられた。商業全体の「前年同期」と比べた業況判断 D I は $\Delta 35.3$ で、個人消費は低調となっている。

**観光・サービス業**は、オフシーズンを迎えている。スキー場は、人口雪によるゲレンデ整備で前年並みのオープンとなったが、スキー人口の減少などから期待した利用者数には達しなかった模様である。宿泊客は、年末年始は満館のところもみられたが、平日の利用者が伸びず「前年同期比」宿泊客 D I は $\Delta 40.0$ となっている。

**建設業**は、建築確認の厳格化による審査時間長期化の影響が一部にみられる。また、土木工事は公共工事が減少のまま推移しており、受注環境に変化はみられず厳しい状況が続いている。

**雇用状況**は、12 月の諏訪地方（諏訪職安・岡谷職安合算）の有効求人倍率は 1.20 倍と平成 15 年 10 月から 51 ヶ月連続して 1 倍台を維持しており安定している。

## ●原油高騰の収益への影響

原油高騰が続いており、地域企業の収益性に大きな影響を与えている。

収益に対する影響は、回答全社では49.5%の企業が「前年同月比」で3%以上の影響を受けている。

観光・サービス業では、「前年同期比」で65.0%の企業が影響を受けており（5%以上影響のある企業55%、3%以上影響のある企業10%）、暖房用の灯油の値上がりによるコスト高が収益悪化の原因となっている。

製造業では、燃料・材料費の値上がりなどから「前年同期比」45.0%の企業が収益に影響を受けている。（5%以上影響のある企業23.9%、3%以上影響のある企業21.1%）

原油高の収益影響

(企業数・%)

	3ヶ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヶ月後の予想			
	回答企業	5%	3%	多少	回答企業	5%	3%	多少	回答企業	5%	3%	多少
全体	195	17.9	21	61	194	29.4	20.1	50.5	196	16.3	28.6	55.1
製造業	143	13.3	19.6	67.1	142	23.9	21.1	54.9	145	12.4	26.9	60.7
非製造業	52	30.8	25	44.2	52	44.2	17.3	38.5	51	27.5	33.3	39.2
商業(大型店)	15	20	26.7	53.3	15	20	33.3	46.7	15	26.7	26.7	46.7
建設業	17	17.6	47.1	35.3	17	52.9	11.8	35.3	16	18.8	43.8	37.5
観光・サービス	20	50	5	45	20	55	10	35	20	35	30	35

## 業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（207社）の「3ヶ月前比」の業況は、好転とする企業が7.7%、悪化とする企業が35.7%で業況判断DIは△28.0と2期連続してマイナスとなった。

製造業の業況判断DIは△23.0で前回調査時の△5.4に続きマイナスとなり業況は後退した。製造業主要5業種は全ての業種で業況悪化企業が増え、業況判断DIはマイナスとなった。昨年の秋口以降からのサブプライムローン問題やアメリカの年末商戦などの影響から、デジタル家電関連企業に生産調整の動きが懸念されるなど製造業に環境変化が窺える。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断DIは△41.8で、観光がオフシーズンに入ったこともあり低調となっている。商業は、不順な天候の影響を受け衣料品などの季節商品の売れ行きが低迷し、建設業は公共工事減少と建築確認申請業務の厳格化などの影響がみられた。

産業別業況表

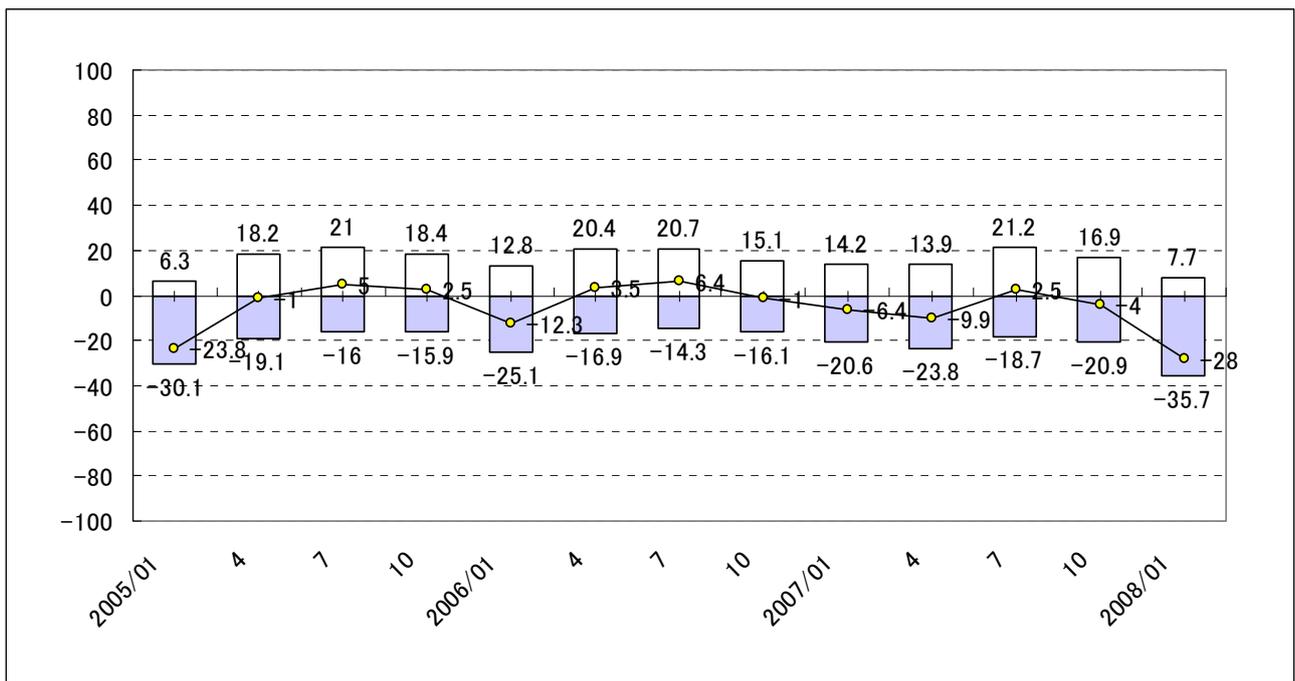
（企業数・%）表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	207	7.7	56.5	35.7	-28	207	16.9	40.1	43	-26.1	206	12.6	63.6	23.8	-11.2
製造業	152	7.9	61.2	30.9	-23	152	18.4	39.5	42.1	-23.7	152	12.5	65.8	21.7	-9.2
非製造業	55	7.3	43.6	49.1	-41.8	55	12.7	41.8	45.5	-32.7	54	13	57.4	29.6	-16.7
商業(大型店)	17	5.9	41.2	52.9	-47.1	17	17.6	29.4	52.9	-35.3	17	5.9	76.5	17.6	-11.8
建設業	18	0	77.8	22.2	-22.2	18	16.7	55.6	27.8	-11.1	17	11.8	47.1	41.2	-29.4
観光・サービス	20	15	15	70	-55	20	5	40	55	-50	20	20	50	30	-10

### 自社業況判断DIの推移

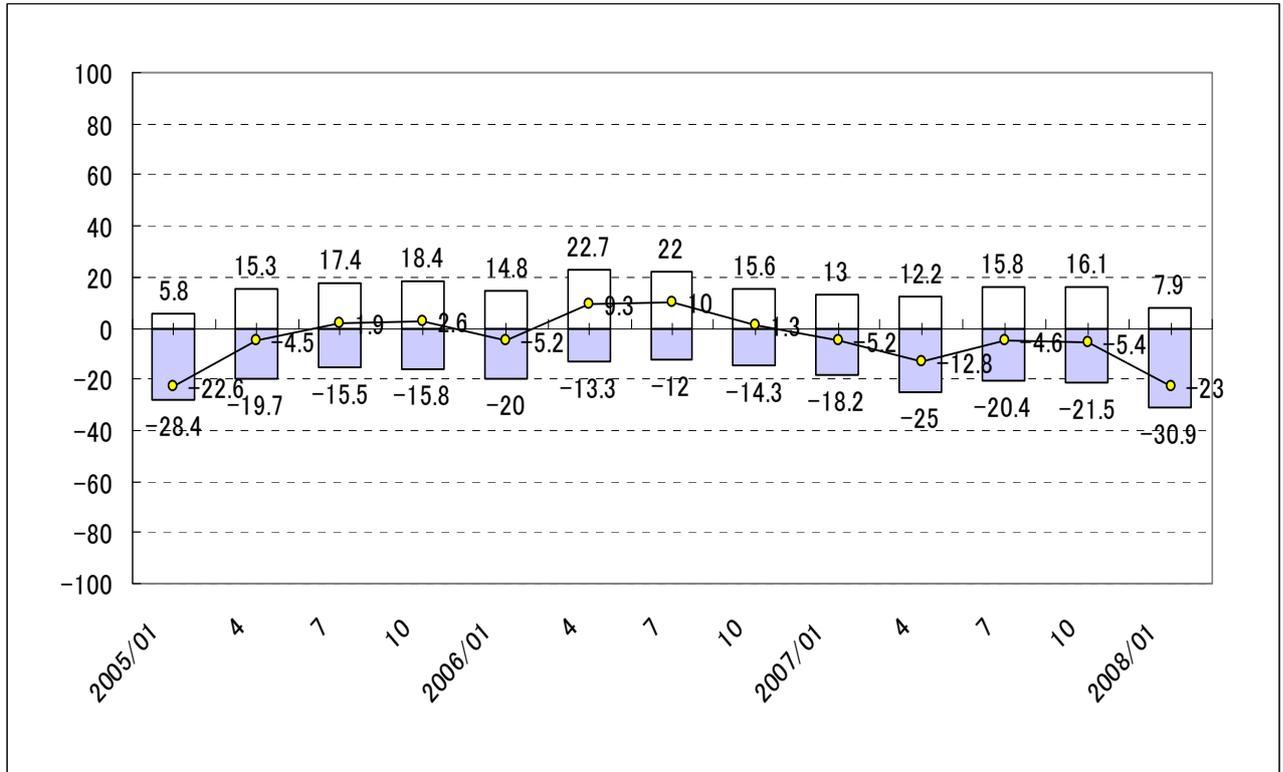
●回答全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-1



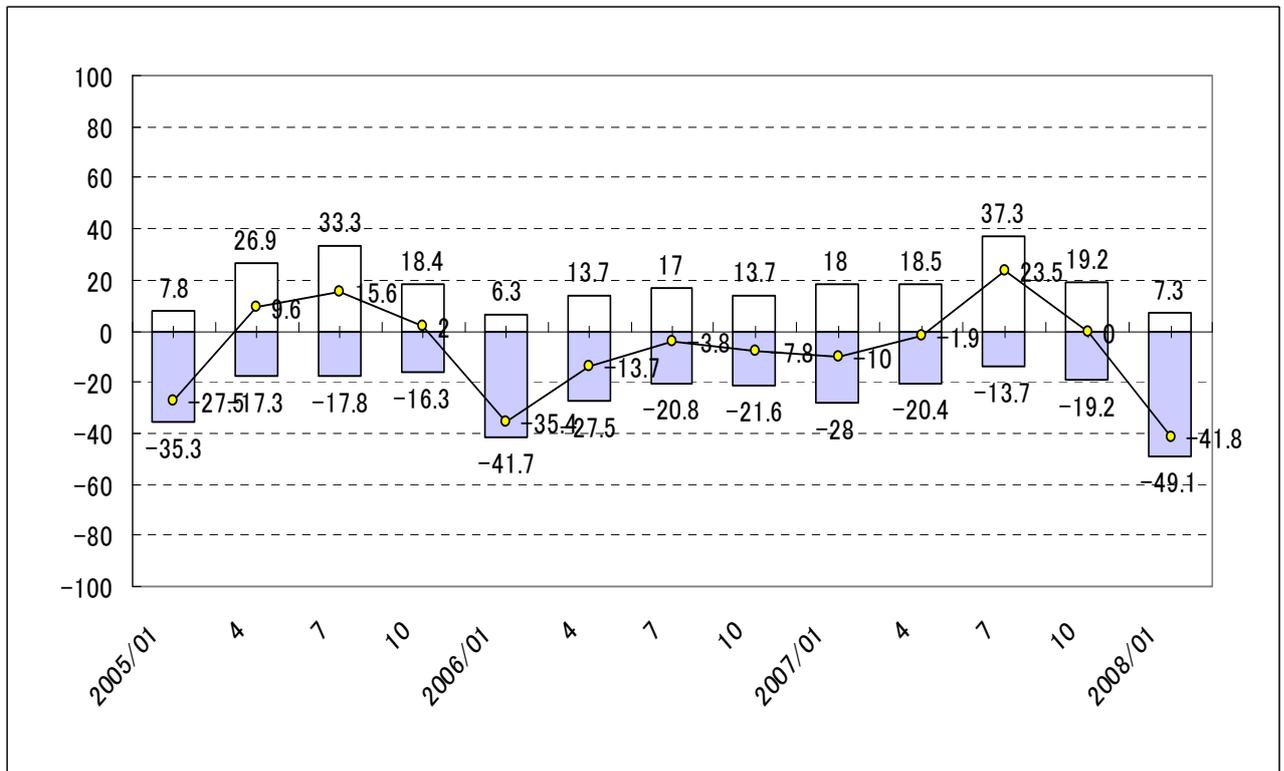
●製造業：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-2



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-3



# 産業別景気動向

## 1. 製造業

製造業の業況判断DIは△23.0と前回調査時の△5.4から17.6ポイント後退している。

業況判断DIは全業種ともマイナスとなっており、また企業規模による業況判断の差もみられず、いずれの規模でも業況が悪化したところが多くなっている。

収益性DIは△35.5で前回調査時の△14.4からさらに収益性は悪化している。受注減少や原材料・燃料費などの高止まり、親企業からの発注単価引下げの影響がみられる。

受注状況の「3ヵ月後」の予想では、「不変」が56.7%と一番多いものの「減少」とみる企業が27.3%、「増加」とみる企業16.0%となっている。

自動車関連は「受注単価」に課題は残るものの、「増加」と予想する企業が20.0%みられる。

ヒアリング調査では、サブプライムローン問題から生じたアメリカ経済の動向や海外市場を含めた株価の乱高下などから、国内外の個人消費の低迷を懸念する声が多く、デジタル家電などの電子部品の一部に生産調整の動きがみられるなど、下請企業の受注回復は春から夏以降になるのでは、との見方がきかれた。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
<b>製造業</b>	152	7.9	61.2	30.9	-23	152	18.4	39.5	42.1	-23.7	152	12.5	65.8	21.7	-9.2	
規 模	1~29人	72	9.7	61.1	29.2	-19.4	72	19.4	38.9	41.7	-22.2	72	9.7	68.1	22.2	-12.5
	30~99人	52	5.8	55.8	38.5	-32.7	52	21.2	34.6	44.2	-23.1	52	17.3	57.7	25	-7.7
	100~人	28	7.1	71.4	21.4	-14.3	28	10.7	50	39.3	-28.6	28	10.7	75	14.3	-3.6
中 分 類	金属製品製造業	18	5.6	44.4	50	-44.4	18	16.7	27.8	55.6	-38.9	18	0	88.9	11.1	-11.1
	一般機械器具製造業	44	13.6	70.5	15.9	-2.3	44	22.7	45.5	31.8	-9.1	44	13.6	63.6	22.7	-9.1
	電気機械器具製造業	33	9.1	57.6	33.3	-24.2	33	15.2	27.3	57.6	-42.4	33	9.1	57.6	33.3	-24.2
	輸送用機械器具製造業	15	6.7	80	13.3	-6.7	15	20	53.3	26.7	-6.7	15	20	73.3	6.7	13.3
	精密機械器具製造業	13	7.7	69.2	23.1	-15.4	13	23.1	46.2	30.8	-7.7	13	7.7	76.9	15.4	-7.7

### ①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

#### ●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは△44.4で前回調査時の△25.5に続き、2期連続して悪化している。「3ヵ月後」の業況予想DIは△11.1で、「横這」とみる企業が88.9%となっている。

#### ●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

業況判断DIは△2.3で「好転」13.6%、「横這」70.5%、「悪化」15.9%となっている。自動車や情

報端末機関連の工作機械、専用機械に受注が回復した企業がみられるが、「3 ヶ月後」については63.6%の企業は「横這」とみており先行き慎重な見方となっている。

●電気機械（家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど）

業況が「悪化」した企業が33.3%で業況判断D Iは $\Delta 24.2$ となっている。一部に生産調整の見方もあり、ヒアリングでは長期的にはデジタル化の流れのなかで受注は増加するものの、早期の回復について慎重な見方が多い。

●輸送用機械（自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など）

業況判断D Iは $\Delta 6.7$ で「好転」6.7%、「横這」80.0%となっている。自動車の国内生産台数が1,000万台を維持しており、発注コストの引下げは厳しいものの受注量は安定している。「3 ヶ月後」の受注予想D Iは6.7と5業種の中で唯一プラスとなっている。

●精密機械（時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など）

業況判断D Iは $\Delta 15.4$ であるが、「横這」とする企業が69.2%あり高水準の生産を続けている企業が多い。「3 ヶ月後」についても、「横這」とする企業が76.9%と他業種に比べ安定している。

②他の製造業

業種により業況は区々となっているが、業況判断D Iはいずれも「悪化」している。需要期に入っている食料品製造業は原材料・原油高騰の影響がみられ、プラスチック工業、繊維工業の業況判断も後退している。

③規模別業況

製造業の規模別の業況判断D Iは「1人～29人企業」 $\Delta 19.4$ 、「30人～99人企業」 $\Delta 32.7$ 、「100人以上企業」 $\Delta 14.3$ で全ての規模で業況判断D Iはマイナスとなっており、規模による差はみられない。「3 ヶ月後」の業況予想では、「好転」とみる企業は「30人～99人企業」に多くみられる。また、業況予想は規模の小さな企業ほど厳しい予想をしている。

ヒアリング調査では、地域大手企業の業況回復は年度の後半からとの見方が聞かれた。

④受注状況D I（業種別、規模別）

製造業全社の受注状況D Iは「3ヶ月前比」 $\Delta 25.8$ 、「前年同月比」 $\Delta 20.5$ となっており受注が減少した企業が増えている。「3 ヶ月後」予想では「増加」とみる企業が16.0%みられるものの、「減少」とみる企業が27.3%で受注予想D Iは $\Delta 11.3$ で今後の受注環境を厳しくみている。

規模別の受注状況は、いずれの規模も受注状況D Iはマイナスとなっているが、なかでも「30人～99人企業」では受注が減少した企業が51%みられ、受注状況D Iは $\Delta 35.3$ となっている。

業種別では、「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iは輸送用機械が0.0となっているほか、他の業種は金属製品の $\Delta 44.4$ をはじめ、精密機械 $\Delta 38.5$ 、電気機械 $\Delta 27.3$ 、一般機械 $\Delta 4.7$ となっている。

主要5業種の「3ヵ月後」の受注予想DIは△13.2で、受注が増加するとみる企業が13.2%、減少とみる企業が26.4%となっている。

ヒアリング調査では、一昨年夏から秋口をピークに受注環境が弱気となり、一時的に受注が好転したものの本格的な受注増加には至らなかったとの見方が聞かれた。

業種別・規模別受注状況表

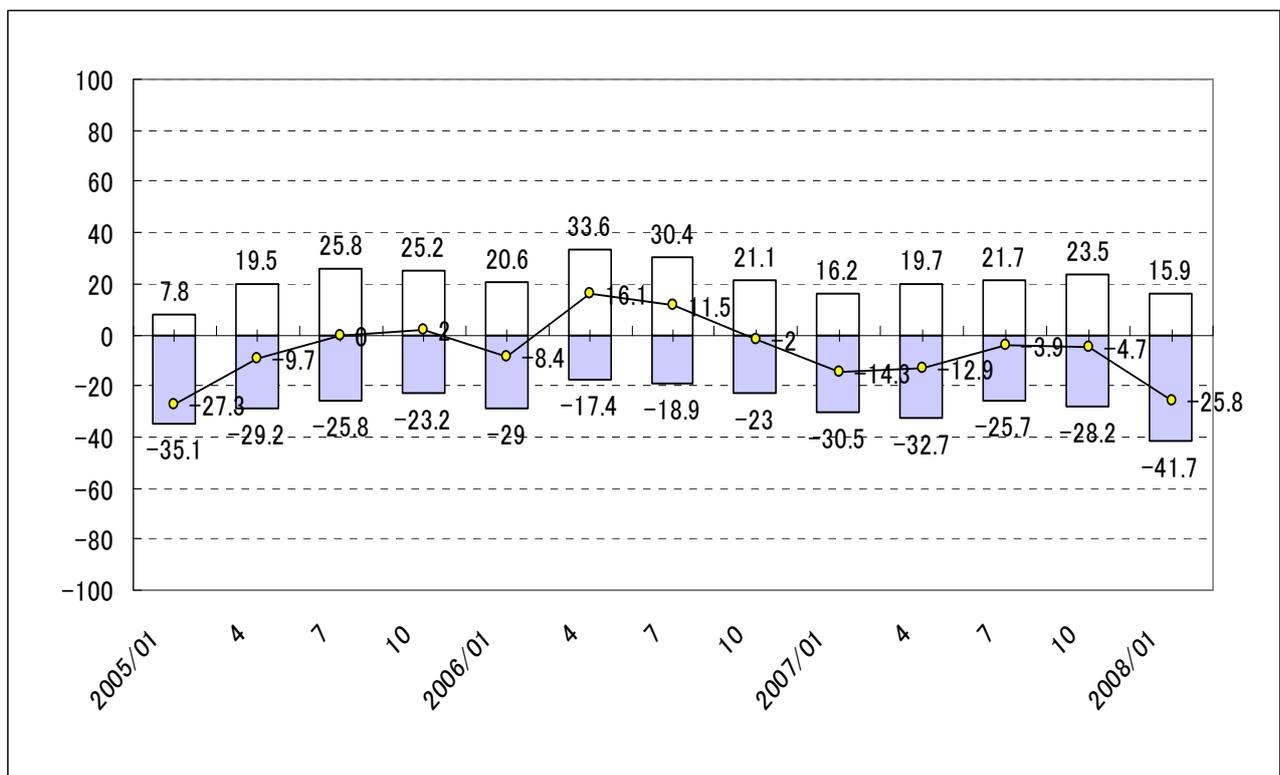
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
<b>製造業</b>	151	15.9	42.4	41.7	-25.8	151	24.5	30.5	45	-20.5	150	16	56.7	27.3	-11.3	
規模	1~29人	72	13.9	47.2	38.9	-25	72	18.1	33.3	48.6	-30.6	71	11.3	57.7	31	-19.7
	30~99人	51	15.7	33.3	51	-35.3	51	31.4	25.5	43.1	-11.8	51	19.6	51	29.4	-9.8
	100~人	28	21.4	46.4	32.1	-10.7	28	28.6	32.1	39.3	-10.7	28	21.4	64.3	14.3	7.1
分類	金属製品製造業	18	16.7	22.2	61.1	-44.4	18	11.1	33.3	55.6	-44.4	17	5.9	70.6	23.5	-17.6
	一般機械器具製造業	43	23.3	48.8	27.9	-4.7	43	30.2	32.6	37.2	-7	43	14	60.5	25.6	-11.6
	電気機械器具製造業	33	12.1	48.5	39.4	-27.3	33	18.2	33.3	48.5	-30.3	33	12.1	54.5	33.3	-21.2
	輸送用機械器具製造業	15	20	60	20	0	15	46.7	33.3	20	26.7	15	20	66.7	13.3	6.7
	精密機械器具製造業	13	15.4	30.8	53.8	-38.5	13	30.8	7.7	61.5	-30.8	13	15.4	53.8	30.8	-15.4

製造業の受注状況DIの推移

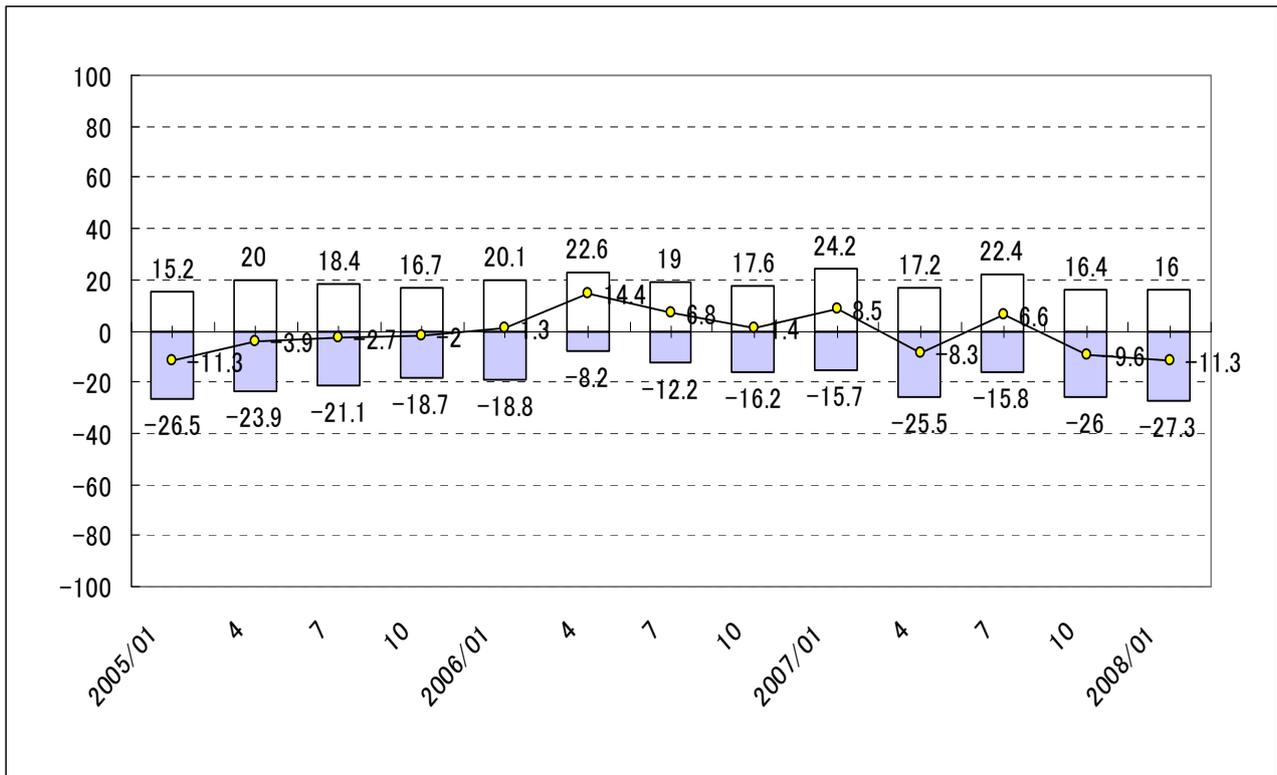
● 全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-4



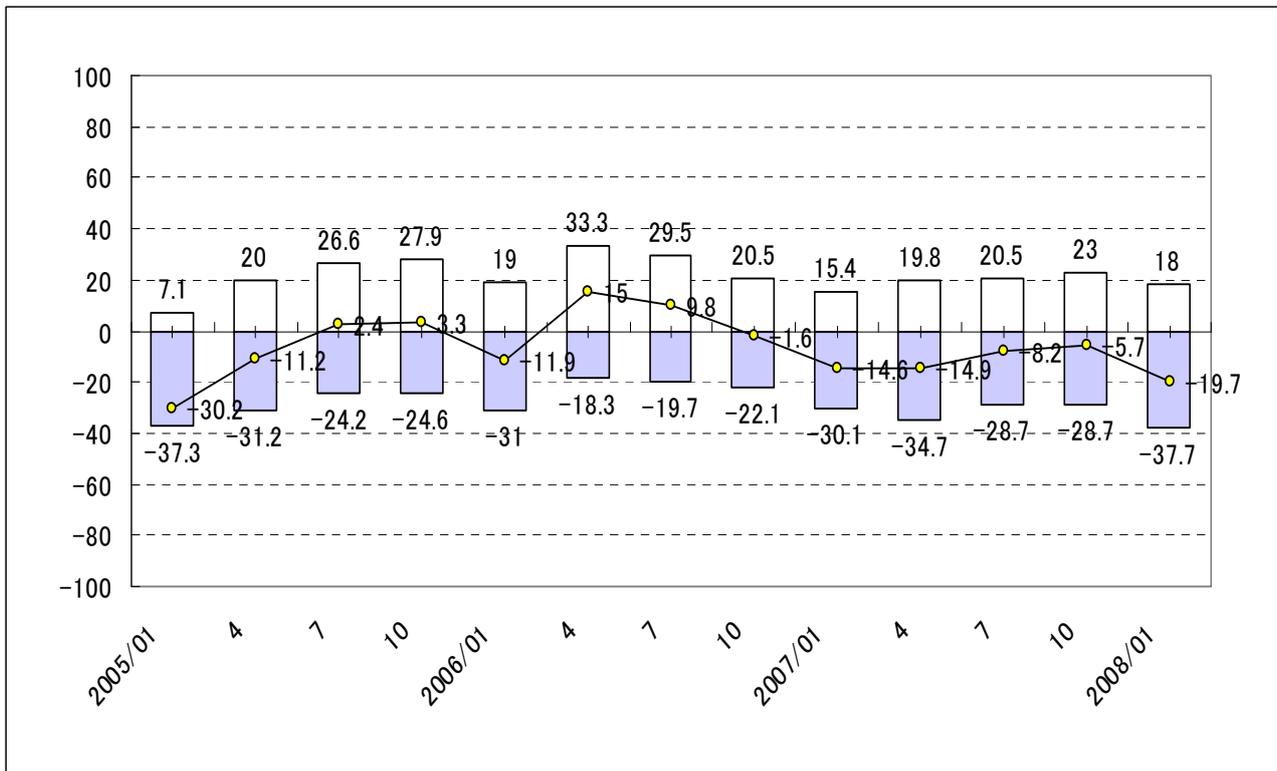
●全社：「3ヶ月後」の予想

グラフ-5



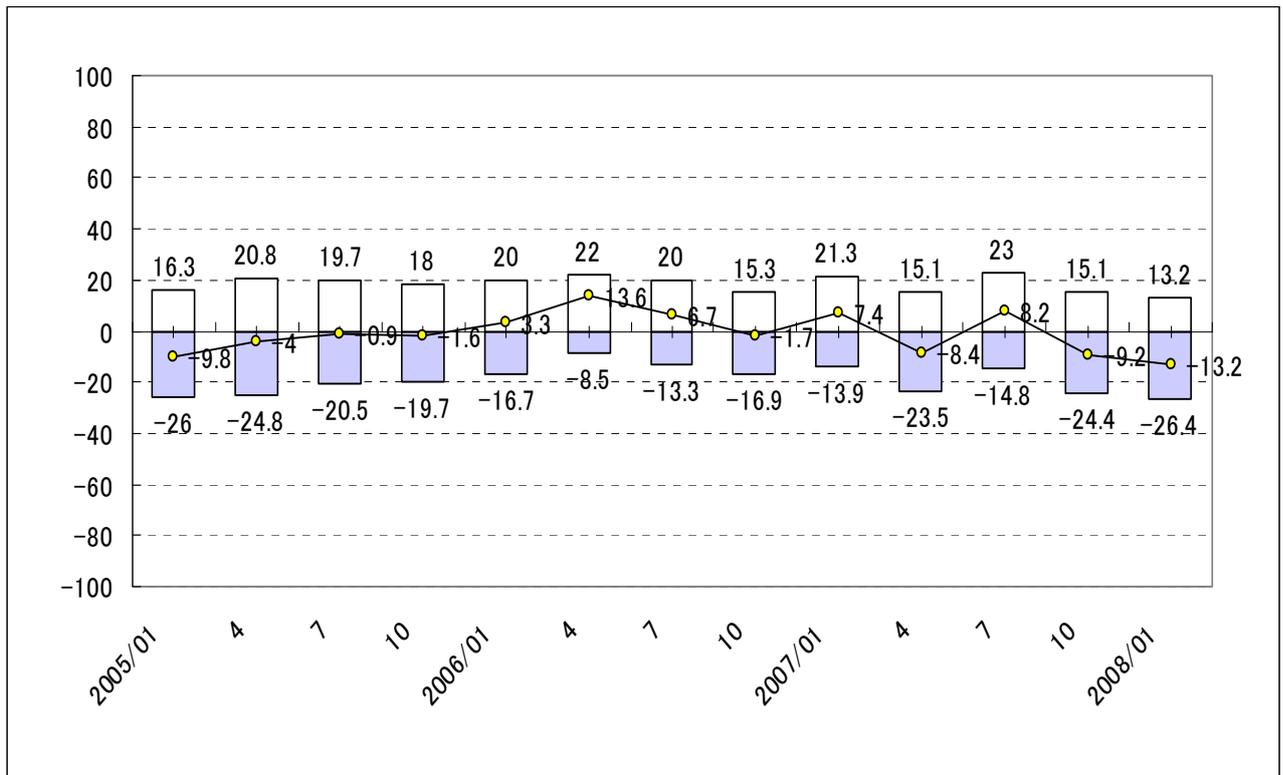
●主要5業種：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-6



●主要5業種：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー7



## 2. 商業・観光サービス業

### ①商業

天候の影響を受け、冬物商品の売れ行きは低調であった。食料品、衣料品、ホームセンターなど商業全体の「前年同期」と比べた業況判断DIは△35.3となっている。また、商品価格が下がっていることもあり、「前年同期」と比べての客単価DIは△35.3となっている。ヒアリング調査では、来店客一人当たりの購入点数が伸びないなど、個人消費は全般に低調であるとの声が聞かれる。

- 食料品 週末に降雪が続き来店客の出足が鈍く、売上が前年を割り込んでいる。生鮮3品では、食肉の売れ行きは前年を上回ったものの、野菜と魚はやや低調となっている。中国製食品の安全問題から、冷凍食品の売上が大幅に落ち込んでいる。
- 衣料品 12月、1月の気温が高かったことから、防寒衣料品の売れ行きは低調だった。早めにバーゲンセールを行った店舗がみられたが、その後寒波が到来するなど天候に恵まれず、売上は前年割れとなっているところがみられる。
- ホームセンター 降雪日が少なく除雪用具の売れ行きなど低調で、売上は前年を下回った模様。
- 大型家電店 薄型TVは価格が下がったこともあり、販売台数は伸びている。パソコンなどの動きが弱かったものの、新築家屋で省エネ型エアコン設置の動きが出ており、総体では前年同期を上回った模様。

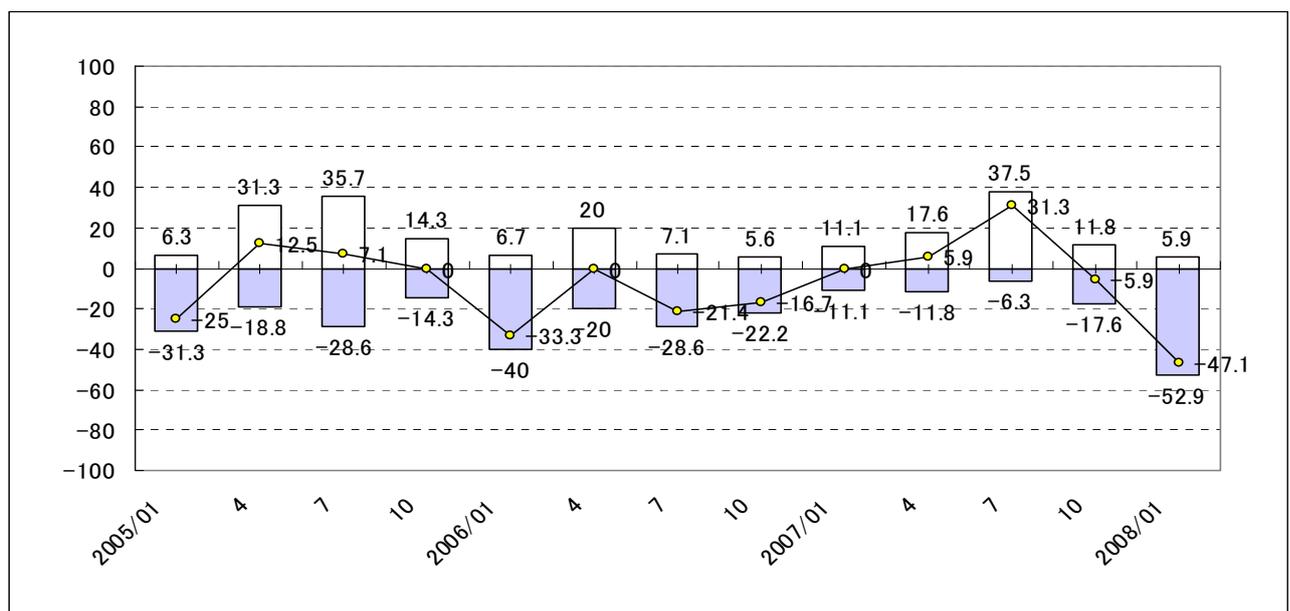
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	17	5.9	41.2	52.9	-47.1	17	17.6	29.4	52.9	-35.3	17	5.9	76.5	17.6	-11.8
客単価	17	5.9	47.1	47.1	-41.2	17	11.8	41.2	47.1	-35.3	17	11.8	47.1	41.2	-29.4
来店客数	17	11.8	52.9	35.3	-23.5	17	29.4	29.4	41.2	-11.8	17	17.6	52.9	29.4	-11.8

●商業全社の業況判断DIの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-8



## ②観光・サービス業

スキー場は降雪時期が遅れたものの人口雪によるゲレンデ整備で前年並みのオープンとなったが、利用客はスキー人口の減少などから幾分減少した模様である。

ホテル旅館は、年末年始に満館のところもみられたが平日の宿泊客が減少しており、総体では前年を割り込み、宿泊客数D Iは、「前年同期比」△40.0となっている。

白樺湖・蓼科・霧ヶ峰方面は、スキー客が減少したこともあり宿泊客は総じては減少した。

上諏訪温泉、下諏訪温泉は、期待の御神渡りが1月中に発生しなかったこともあり、やや低調となっている。団体客で賑わいを見せたところもあるが、総じては前年を下回った模様である。

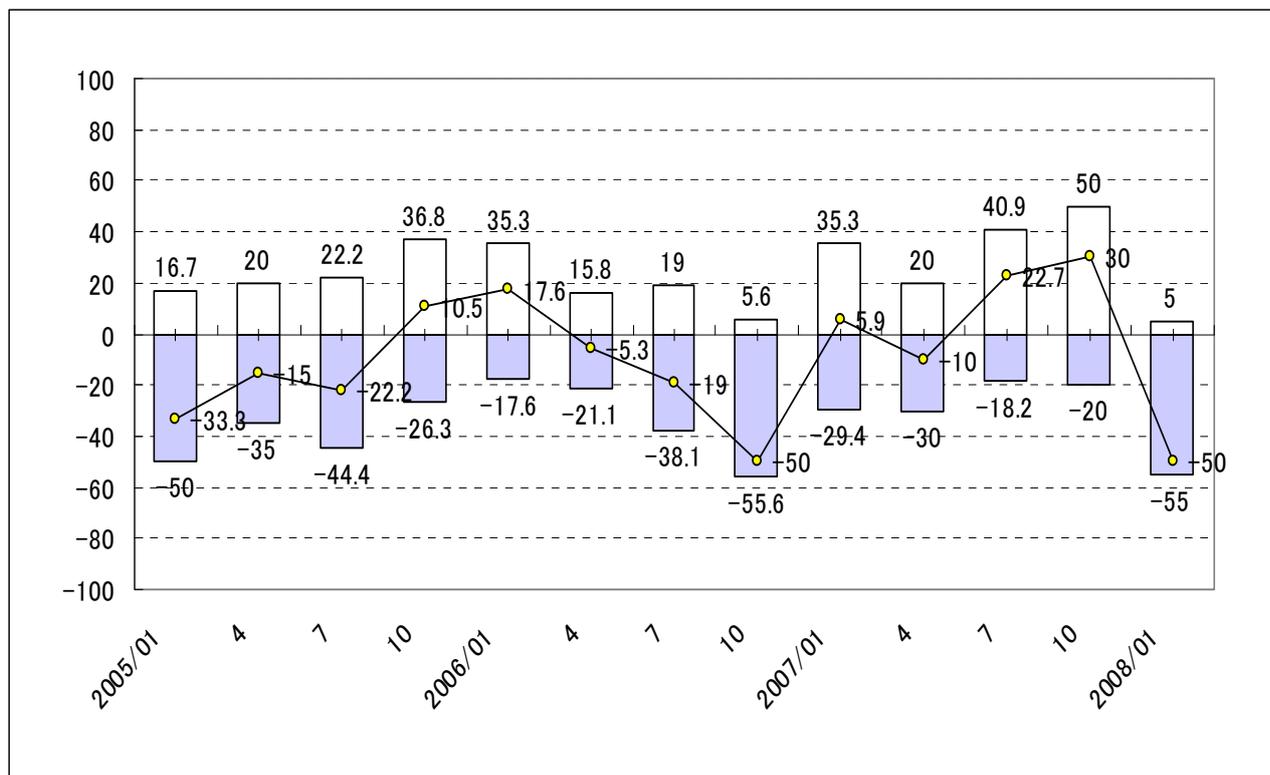
### 業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	20	15	15	70	-55	20	5	40	55	-50	20	20	50	30	-10
客単価	20	10	30	60	-50	20	0	55	45	-45	20	5	60	35	-30
宿泊客数	20	20	10	70	-50	20	10	40	50	-40	20	25	35	40	-15

### ●観光・サービス業全社の業況判断D Iの推移：「前年同期」と比べて

グラフ-9



### 3. 建設業

建築工事は、新設住宅着工件数が幾分増加し、公共施設の耐震工事などにやや動きがみられる。土木工事は、公共工事が少なく低調となっており、依然厳しい経営環境が続いている。「前年同期比」の業況判断は「好転」が16.7%みられたが、「悪化」が27.8%で業況判断DIは△11.1となっている。

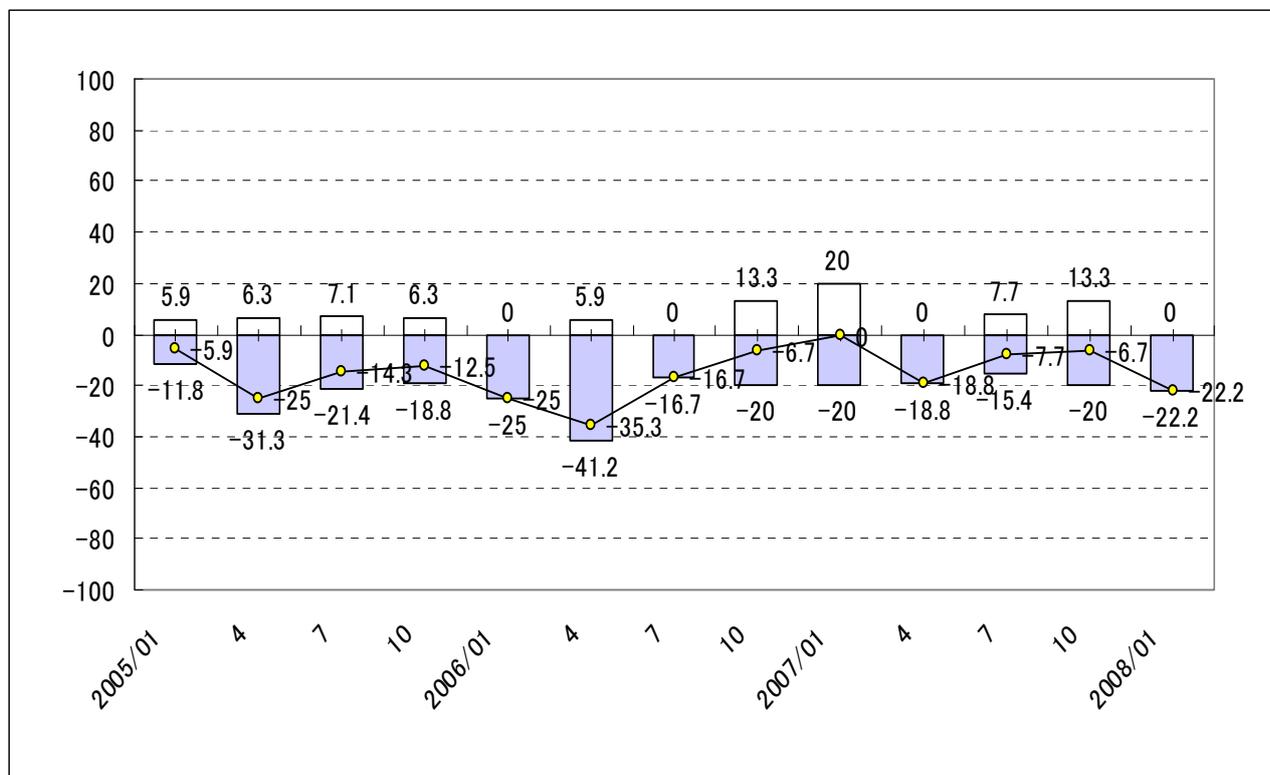
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	18	0	77.8	22.2	-22.2	18	16.7	55.6	27.8	-11.1	17	11.8	47.1	41.2	-29.4
受注状況	18	5.6	44.4	50	-44.4	18	5.6	50	44.4	-38.9	17	5.9	41.2	52.9	-47.1
外注発注量	18	5.6	44.4	50	-44.4	18	0	44.4	55.6	-55.6	15	6.7	46.7	46.7	-40

●建設業全社の業況判断DIの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-10



#### 4. 収益性状況

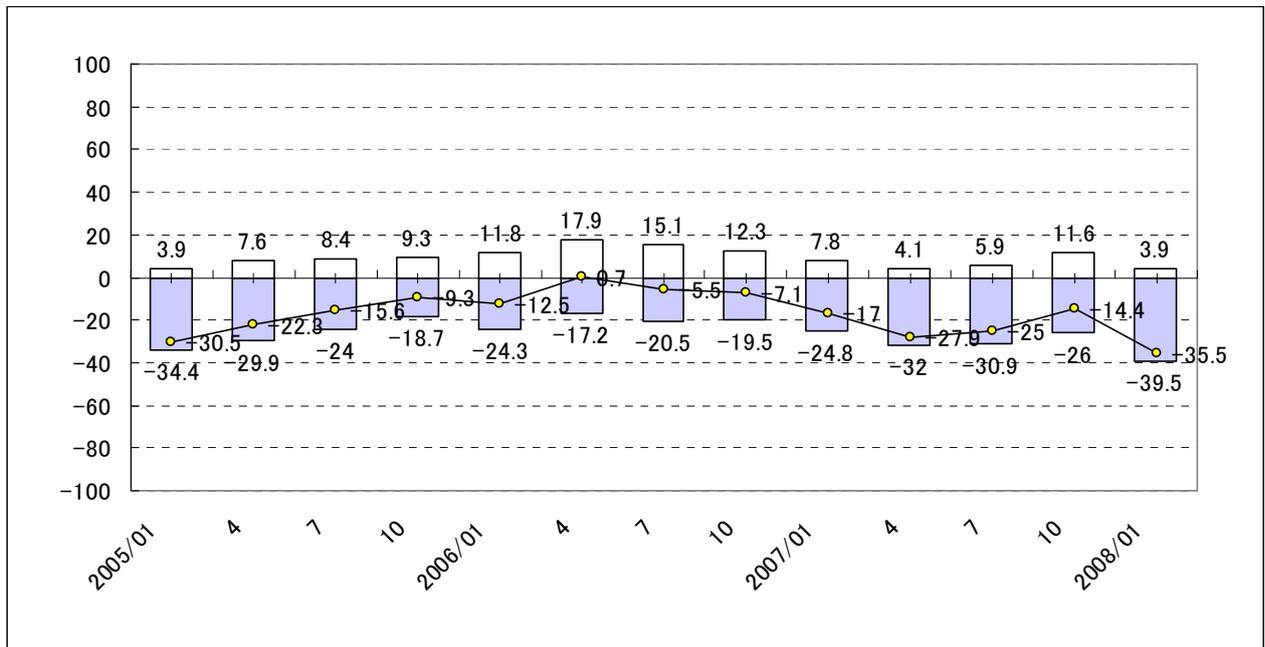
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは△38.6となっている。

製造業は、受注減と材料費や原油高騰の影響に加え、発注単価の引下げから「3ヶ月前」と比べ収益性が「悪化」した企業が39.5%となっている。

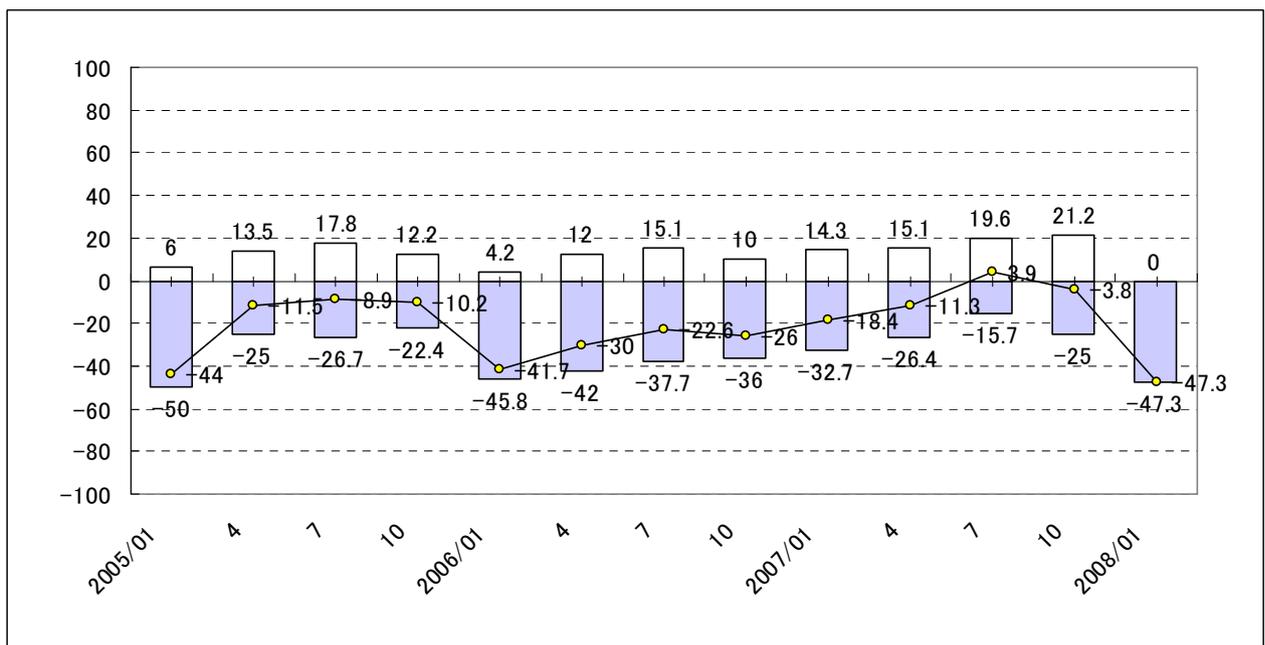
非製造業の収益性D Iは△47.3となった。なかでも、観光・サービス業は原油高の影響を5%以上受けた企業が50%を占めるなど、収益性に大きな影響が及んでおり収益性D Iは△60.0となっている。建設業は受注減少、受注単価の下落が収益性悪化を招いており収益性D Iは△27.8となった。

●製造業の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー11



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D I：3ヶ月前と比べて グラフー12



## 5. 経営上の課題

経営上の課題として、①製造業は売上減少、競争激化、単価引下げをあげる企業が多く、②商業は売上減少、競争激化、労働力確保、③建設業は売上減少、競争激化、単価引下げ、④観光・サービス業は売上減少、単価引下げ、資金繰りをあげている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	122	80	13	13	16
単価引下げ	58	39	3	8	8
競争激化	68	46	8	13	1
資金繰り	40	25	2	5	8
人件費	34	22	5	1	6
労働力確保	27	19	6	0	2

## 6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率 【12月】	諏訪公共職業安定所管内	1.10 倍	△0.03 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.40 倍	△0.53 ポイント
手形交換高【1月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	12,964 枚	△1,038 枚
	金額	18,250 百万円	△1,029 百万円
うち不渡り 発生状況	枚数	1 枚	△1 枚
	金額	122 千円	△3,178 千円
車庫証明取扱件数【1月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		953 件	△3.2 %
新設住宅着工件数(H19.04~H19.12) (諏訪地方事務所管内)		1,224 件	△21.8 %

## 7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- 調査期間 平成20年1月末
- 調査内容 「平成20年1月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- 調査方法 アンケート調査及びヒアリング調査
- 対象地域 諏訪地域全域
- 業種 製造業、商業（大型店：売り場面積501㎡以上）、建設業、観光・サービス業
- 回答企業数 207企業
- 回答率 69.0%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業他	合計
依頼数	225	30	22	23	300
回答数	152	17	18	20	207

